

高松医療センター Medical News

基本理念

私達は、患者様とその御家族の立場に立った医療の推進に努めます

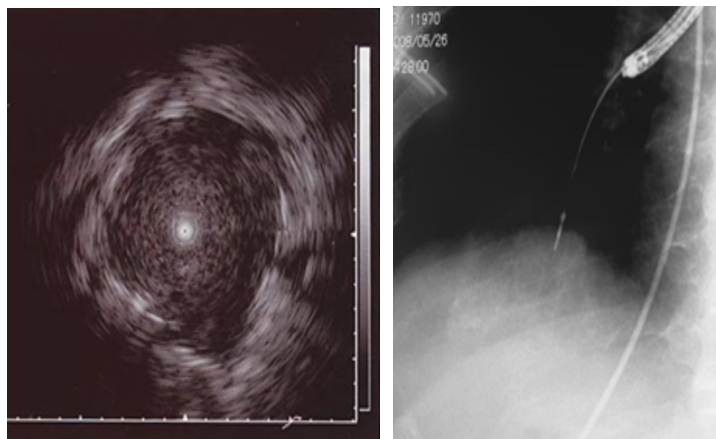
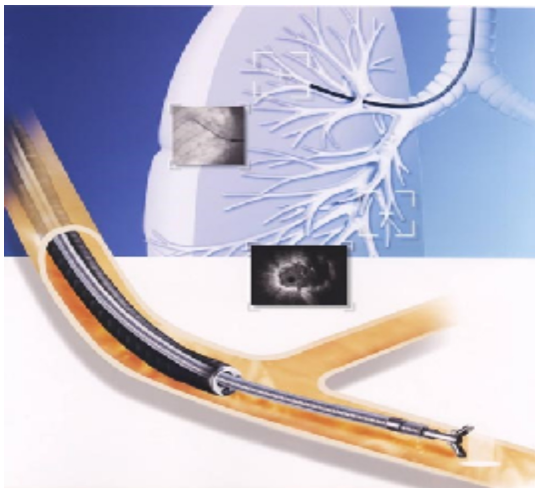
呼吸器内科

ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法 (EBUS-GS)

肺癌などの診断に

当科では肺癌やびまん性肺疾患などの診断目的に気管支鏡検査を行っています。呼吸器内科医師2名とも日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医の資格を有しています。

県内でもいち早く、2009年よりガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を導入し、診断精度を上げるべく努力しています。



ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)は肺末梢病変の経気管支生検診断率の向上、肺末梢病変の超音波による質的診断を目的とします。

気管支鏡より細径超音波プローブを専用ガイドシースから挿入、肺末梢病変をエコーで描出し、エコー所見を確認

後、最適の生検部位を決定します。ガイドシースを留置したまま超音波プローブのみ抜去し、代わりにブラシ、生検鉗子により擦過、生検を行います。従来の透視のみを用いた方法と比較して病変のより正確な位置での生検が可能であり、出血時の対応が容易であること、エコー所見から良悪性の推定がある程度可能であることが利点で、診断率の向上につながります。当院ではすでに、このガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を100例以上行っております

検査予約については、1度外来受診をして頂いた上で予約しております。ご紹介頂く際には、当院地域医療連携室にて予約しておりますのでお気軽にご連絡下さい。

身近な病気『結核』

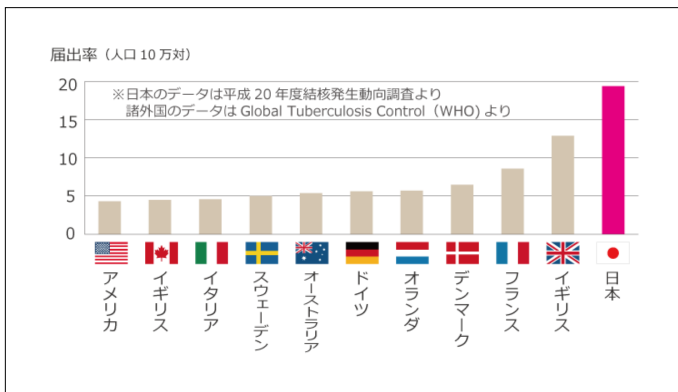
呼吸器内科医長 東條泰典

呼吸器内科は、政策医療としての結核診療と、呼吸不全、肺感染症、慢性閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患、肺癌等を中心とした一般呼吸器診療の2本柱で行っています。

60床の呼吸器内科病棟は、40床の一般病棟と20床の一般病棟とは分離した結核ユニットとなっています。

結核は古くて新しい病気

結核患者数は徐々に減少傾向にあるとはいえ、人口10万人対16.6(2012年)は欧米先進国の約4倍であり、我が国最大の感染症であることは変わりありません。



結核病床を持つ病院が県内に少ないこともあり、当院は香川県の結核患者受入れの最終拠点病院としての役割を担っています。

結核診療はIGRAや新薬の登場、多剤耐性菌の問題など新しい話題が出てきており、まさに古くて新しい疾病と言えるでしょう。また、患者様の高齢化が進んでおり、様々な合併症に悩まされることも少なくありません。

当院では呼吸器内科医師2名とも、日本結核病学会結核・抗酸菌症指導医の資格を有しており、県内全域から患者紹介、相談を伺っています。

そのような中、診断、治療はもちろんのこと、看護師主導による直接服薬確認療法(directly observed treatment short-course:DOTS)、薬剤師による薬剤指導、栄養士による栄養指導、保健所との連携や月1回の保健師を交えたカンファレンスなどチーム医療で対処しています。

増える非結核性抗酸菌症

非結核性抗酸菌症は結核とは相反して近年増加傾向にあります。これは高齢者の増加、糖尿病など免疫力の低下した患者数の増加、健診発見例の増加が原因と考えられています。

症状や画像は結核と類似することがありますが、結核とは治療方針が異なること、感染対策上も結核との確実な鑑別が必要です。

当院では喀痰検査、気管支鏡検査などを駆使して、非結核性抗酸菌症の正確な診断を行っています。治療は同定した菌種と菌量、画像上の進行度などを勘案して適切なタイミングで行っています。

排菌のある結核患者はもちろんのこと、結核が疑われる患者様、判断に迷う患者様、非結核性抗酸菌症患者など、当院地域医療連携室にご連絡いただければ、迅速に対応いたしますのでお気軽にご相談ください。

結核を疑う患者様のご紹介の際には

1. マスクの着用を！

他の患者様やスタッフのためにも、患者様へのマスクの着用をご指導下さい！

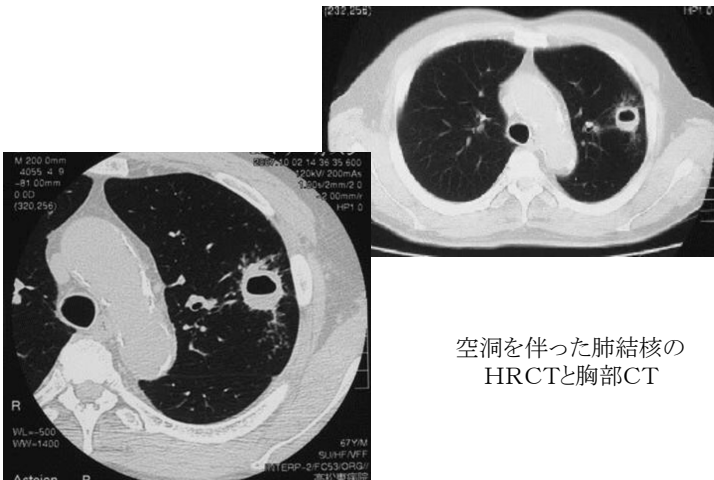
2. 地域医療連携室へご連絡下さい。

他の患者様との接触を避け、陰圧室にご案内致しますので、地域医療連携室までご連絡下さい。

地域医療連携室

TEL:087-841-2162

Fax:087-841-2178



一般呼吸器疾患について

一般呼吸器疾患は、市中肺炎、誤嚥性肺炎を中心とした肺炎の患者数が最も多くなっています。肺炎の患者様は高齢者が多く、時に重症化することがあります。急性期にはICUに準じる様な集中的な治療を行い、また慢性期には嚥下造影検査(VF)による嚥下評価に基づき、食事形態の検討や栄養投与経路の検討、嚥下リハビリや呼吸リハビリなど家庭復帰や施設入所を念頭に置いた治療を行っています。

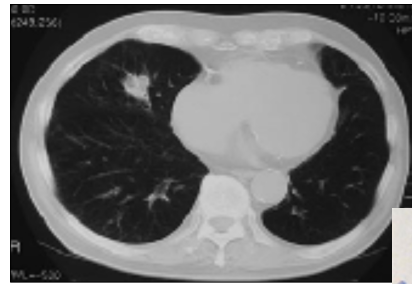
慢性閉塞性肺疾患(COPD)は近年増加傾向を示しており、当院でも多数の患者様が通院しているため、最新のガイドラインに沿い、診断と治療を行っています。病状の進行や急性増悪時には、入院の上、在宅酸素療法(HOT)導入や非侵襲的陽圧換気導入、多職種による呼吸リハビリテーションや患者教育などを積極的に行っています。

間質性肺炎を代表とするびまん性肺疾患も当科で診療を行っています。画像的診断(HR-CTを含む)のみならず、気管支鏡による気管支肺泡洗浄(BAL)や経気管支肺生検(TBLB)なども駆使し、診断治療を行っています。

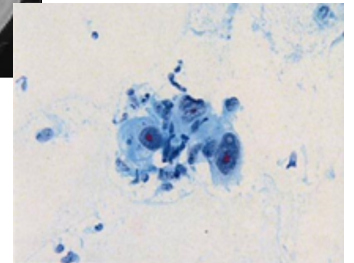
悪性腫瘍の診断・治療

悪性腫瘍の中でも、肺癌は今や我が国の癌死因第1位であり、今後も増加が予想されます。当院では呼吸器外科や放射線治療機器がありませんので集学的な治療は行えないのが現状です。

しかし、肺癌が疑われる胸部異常影に対して当院で可能な画像検査や気管支鏡検査を駆使して診断を行っています。肺癌と確定診断がついた患者様に対しては、患者



肺癌の画像と細胞診



様やご家族の希望に沿って、香川大学医学部附属病院など集学的な治療が受けられる施設に紹介しています。

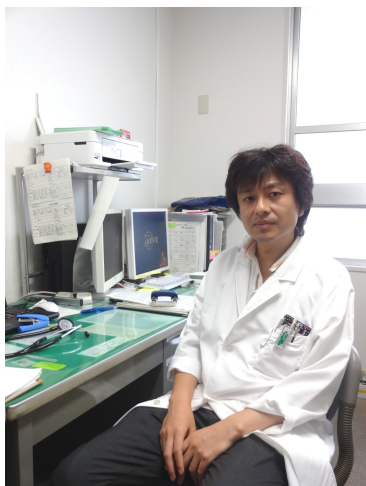
また、進行肺癌で手術や放射線療法が適応でない場合、全身状態が悪く積極的な治療が受けられない場合は当院で化学療法や緩和療法を行っています。

チーム医療を目指して

当院では、医師や看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床工学士、ソーシャルワーカーなど多職種でのチーム医療を行うべく、週1回の呼吸器カンファレンスを通じて患者様一人ひとりの治療方針の情報共有とスタッフ同士の意思疎通を図っています。

当院呼吸器内科での診療内容を簡単にご紹介させていただきました。上記以外にも呼吸器内科疾患全般に対応しておりますので、患者様のご紹介の際には是非とも地域医療連携室までご相談ください。

医師紹介



統括診療部長
山口 真弘

香川医科大学(現香川大学医学部)
平成4年卒
日本内科学会認定内科専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医
日本結核病学会指導医
I C D
香川大学医学部臨床教授



呼吸器内科医長
東條 泰典

日本大学医学部
平成8年卒
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会
気管支鏡専門医
日本結核病学会
結核・抗酸菌症指導医
I C D

病棟紹介

呼吸器内科病棟

呼吸器内科病棟は、病床数60床、うち20床が結核ユニットであり、40床は一般病床で呼吸器疾患の患者様が入院されています。

病棟の看護体制は、固定チームナーシングを行っており、チーム分けは、呼吸器内科(一般)2チームと結核チーム1チームの3チームに分かれています。固定チームナーシングを行うことで、患者様が入院から、退院されるまで、チームで責任を持って継続した看護を行い、安心、安全な医療、看護が受けられるに取り組んでいます。また、看護体制は3交代で、夜間看護体制も準夜3名、深夜3名で日々看護を行っています。

結核ユニットの特殊性として、入り口は2重扉で陰圧空調に完備され、ユニット内の空気は一方方向へ流れ、一般病床に結核菌は流れ出ない構造となっています。



結核ユニットへの2重扉

結核看護として、

1. 結核に対する正しい知識の指導と、DOTS療法(医療従事者の前で患者が薬を確実に内服することを確認し、完全に治癒するまで支援する治療法)の実施。



直接服薬確認療法

2. 積極的に栄養状態の改善、合併症の予防を行い治療が継続できるように支援する。

3. 患者様、ご家族が安心して退院できるように身体的側面だけでなく、心理的・社会的側面の支援をチームで行っています。

そして、退院後も、外来継続看護と、保健師訪問、面談等による確実な服薬確認ができるように、月に1回、医師、看護師(病棟、外来)、薬剤師、保健師等、MSW、他職者とカンファレンスを行い、患者様が服薬完了まで内服継続できるように支援をしています。そして、一般、結核の患者とともに、退院困難な患者に対しては、地域医療スタッフとともに、退院前カンファレンスを活用し連携体制の強化を行っています。

また、病棟では「患者様の権利や尊厳の努力を惜しまず、専門職としての誇りと責任を持って医療サービスに努めます」という看護部理念のもと、平成26年度病棟重点目標として「安全・安心な医療を提供する。」「カンファレンスを活用し、チーム医療を推進する。」を立て、患者さま・家族に寄り添い、質の高い看護が提供できるように、病棟スタッフ全員で日々取り組んでいきたいと思っております。



呼吸器内科病棟スタッフ



独立行政法人 国立病院機構
高松医療センター
〒761-0193
香川県高松市新田町乙8
TEL:087-841-2146 FAX:087-841-2178
URL:<http://www.hosp.go.jp/~takamath/>

編集後記

今年も暑い夏がやってきました。当院では昨年より正面玄関両側に西洋アサガオ(オーシャンブルー)による緑のカーテンを栽培中です。強い日差しを遮るだけでなく、紫色の綺麗な花たちもご来院の方々をお出迎え致します。

発行責任者:病院長 細川 等 編集責任者:地域医療連携室